

ぶどうの木

2009年8月
第88号
聖アウグスチノ
カトリック葛西教会

東京都江戸川区中葛西1-10-15
03-3689-0014

主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです

(ルカ一章四十五節)

主任司祭 トマス小崎 柴田 弘之

真夏のある日、東京郊外に出かけたときのことです。電車を降りてターミナルからバスに乗り、しばらく車窓からの風景を眺めていると車内は次第に冷えてきました。読みかけていた本をかばんから取り出して読み始めます。前の出口から降りる乗客が「ありがとうございますございました」と運転手さんに声をかけているのが新鮮に聞こえます。しばらくして小学校2年生くらいの女の子が二人乗り込んできて私の反対側の二人掛け席に座ります。バス停に目をやると「○○小学校前」とあります。「わー涼しい。生き返るね」そんな二人のかわいらしい会話を耳にしながら三十分程読んでいると終点のバスターミナル。みんなが降りた頃を見計らって本をかばんにしまい席を立とうとす

ると、先ほどの二人が立ってこちらをじっと見ています。バスの中はもう私たち三人だけです。不思議に思い「どうしたの？」と表情で尋ねると、手前にいる子が「どうぞ」と言うのです。大きなかばんを持った私を先に降りそうと道を譲ってくれているのだということにやっと気付きます。「先にいいよ」と声をかけても降りようとはしません。少し慌てた私は「どうもありがとうございます」と小学生にはあまりにかしこまったあいさつをしてバスを降りました。その日はずっと何か暖かいものが心に残りました。

こんな小さな出来事を通して、私たちの気持ちは妙に軽くなったりするものです。でも彼女たちにとってはたまたま出くわした偶然的の出来事ではなかったはず。周囲の人に席を譲ること、大人を先に通すことなどをおそらく普段から学校で教わり、このようなちよつとした勇氣ある行動もいつしか当然のこととして身につけていったのではないか、と思えてなりません。ちよつとした親切な行為が生まれる背後には、長い時間をかけて教育と愛情を注いだ親たち、先生たちがいるのです。

「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです」エリ

ザベトはこのようにマリアをたたえます。子どもの頃マリアが家庭でどのように育てられたのか、聖書は何も語りません。神の恵みに包まれ、主に信頼を置くことを知っていたマリアは、きつと愛情を豊かに注いだ親、兄弟姉妹たちにも恵まれていたのではないかと想像したくなります。主のことはであるならば、いつかきつと現実となり出来事となる。そしてその出来事は神の栄光を表し、多くの人の心に明かりをともすことになる。マリアに続きそのように信じる人々を通して、主は平和への道を整えられます。「お先にどうぞ」と心から言えるのは、どんなときでも主は自分のことを心にかけていてくださる、と信頼を置いてい



財務部から

ガブリエル 今井 實

皆様には、日頃から教会財務の運営に對しまして深いご理解と暖かいご支援とを頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、当葛西教会の経済的運営の財源は、月定献金（維持費）、信者会費及び通常献金（ミサ献金）に拠っております。この皆様からいただいた浄財は、大切に管理し使わせていただいております。そして皆様ご承知のとおり、その決算は毎年2月の信者総会にて報告し、承認をいただいておりますが、毎週の「お知らせ」においても月々の献金収入を報告しております。ところで、以前、次のような質問を受けたことがあります。

「維持費を納めるに当たってどのくらいの金額を目安としたらいいのでしょうか。」

このことについて東京教区本部では、「献金である限り『一人ひとりの気持ちに尊重したい』というのが、カトリック教会の姿勢です。各自の事情を踏まえながら、およそ年収の1〜3%を目安にいただければ…」

と広報しております。また、葛西教会では、「ご自分の手取りの月収の2%を最低基準としてそれ以上を各自、分にに応じてご自分で決め毎月献げて下さい。」と以前から献金封筒の裏面に記載しております。結局、信徒の皆様が抱える諸事情のなかで各自の判断により「目安」が決められるものと理解しております。

大切なことは、単なる義務感から献金をするのではなく、与えられた神の恵みに感謝し、喜びを持って献金する気持ちではないでしょうか。社会・経済情勢が厳しい折それぞれのご家庭におかれましても経済的に困難なときであり、また、教会建物補修の特別献金が進められてい

るときでもありますが、今後とも教会財務の安定的向上のために、皆様の可能な限りのご協力をお願い申し上げます。

建物管理部から

建物管理部会ドミニコ 佐々木 満夫

五月十七日の教会委員会にて、「建物補修特別献金」案が承認されました。全ての成人信者からのご寄付を募ることになりました。

信者名簿に従って、八百二十名の宛名書きに着手し、七月八日に終了。レターケースに入れ、残りを郵送したのが、七月二十八日でした。

宛名書きをしながら、一人ひとりのお顔を思い浮かべ、心からのご協力を祈りました。

ご高齢の方・二十才の学生の方・経済的に困難であろうと思われる方など、全ての人に書かせていただくことに、心苦しく思いました。でも、みんなでこの葛西教会を支えていく、という思いと願いがありました。

「特別献金」にご理解と、ご協力をお願いします。

合同地区集会開かれる

七月九日、地区集会の今年の合同地区集会は、二つの地区毎の組合せで四つのグループで話し合いが持たれた。延べ九十人が参加した概要は、次の通りです。

- 自己紹介と新人の紹介
- 反省として「全員名札着用」にしたい
- 教会行事の紹介と参加の呼びかけ
- 掃除 ○葬儀のこと ○教会離れについて
- 教会補修の寄付の呼びかけ
- バザーの計画、協力の呼びかけ
- バザーの教会外への広報

○韓国のカトリック400万人の秘密

○家庭集会

○合同の新年会等の企画

○ロザリオの祈りの担当

○その他

地区部会では、今回の合同地区集会の感想、印象、提案、反省などを自由に話し合った。そして、日頃の地道な信者同士、近隣の方との「呼びかけ」の大切さを確認した。今回の話し合いを踏まえ、より良い地区会のあり方を模索してゆきたい。

今後ともご協力、ご奉仕を宜しくお願い致します。 文責・脇谷

茶話会報告

六月十四日（日）十時のミサ後、行船公園内にある源心庵にて東葛西・中葛西地区の茶話会を行いました。

参考までに源心庵は築山池泉回遊式庭園の池に張り出した浮御堂形式で池泉の眺望が楽しめる数奇屋造で建てられていて大変風情のある場所です。

当日は梅雨の晴れ間となり、天気も良く和やかに昼食をとり、その後ゆっくりとお茶を飲みながら、いろいろのお話をいたしました。

最近受洗された方よりの信仰告白、韓国からの転入された方からは韓国のカトリックの歴史や動勢を伺いました。韓国では、国民から一番信頼されているのはカトリック信者であり、教会の影響力は非常に大きいとのことでした。またその他、布教についての意見、先ずは身内からなど。

机を片付けた後も、青畳の上に足を投げ出して和室の良さを堪能しつつ、三時半過ぎまで和気あいあいと有意義な茶話会でした。また、三人のシスターが参加して下さり貴重なお話を伺い大変心強く感じました。

十五名の多くの方が参加して下さいました。ありがとうございました。 (文責 堀内)

「聖母の被昇天」

聖母被昇天修道会（RA） 宮本恵子

8月15日は日本において終戦記念日として、戦争の記憶とともに忘れてはならない日です。と同時に、カトリック教会では「聖母の被昇天」をお祝いする日でもあります。平和と希望をもたらす日。

聖書の中で、聖母の被昇天については直接記されていませんが、カトリック教会は何世紀にもわたって伝達されてきた伝承を聖書とともに大切に祝ってきました。

「聖母の被昇天」は、マリアの生涯においてキリストと最も深く結ばれ、死後においてもキリストの復活と栄光に預かっていることを意味しています。「神がともにおられる恵みの受胎告知」の時から全てを父なる神に委ね、愛し、従って生きた貧しいマリアに与えられた最終的な実り、「神が私に偉大な業を行われた」ことを信じ、その信仰を最後まで行きぬいた人間の完成の姿と言えます。マリアだけが特別な存在だと言うのではなく、キリストによってたらされた救いに預かる人たちが、信じる全ての人たちの未来の姿でもあるのです。マリアの希望信仰に倣いながら神の救いの御業を教会は日々伝えていくのです。

聖母被昇天修道会は1839年4月パリで創立されました。「聖母の被昇天」が教義として教皇ピオ12世によって世界に公布

されたのは創立111年後の1950年11月でした。当時修道会の本部はパリからベルギーに移していました。戦争中、危険を冒してまで多くのユダヤ人をかくまったことのある大きな修道院です。その年の8月14日夜、教義が決定されたことをラジオで聞いた一人の少女は、翌朝急いでシスターたちに知らせに行きました。というのもシスターたちは聖母被昇天のお祝いの前夜は特別の典礼があり祈っていたのでニュースを知らないと思っただけです。

その少女は修道院にある聖母被昇天学院の生徒で、戦時中の勇気ある決断をした総長のシスターをよく知っていました。彼女は後にシスターになり、日本に派遣されます。希望と平和の大切さを伝えるメンバ―として。



心から感謝



聖心のウルスラ宣教女修道会

シスターマリア・コンソラータ 高取

四年間という年月が夢のように過ぎ去りました。カトリック葛西教会の神父さま方を始め皆さま方の温かい家族的な雰囲気の中で過ごさせていただき感謝の言葉です。

たくさん楽しい思い出が、私の心に大切に収められ真珠のように光り輝いております。これからも大切にして参ります。

柴田神父さま、シエス神父さま、そして皆さまどうぞお元気にお過ごしになられますようにお祈りを続けてまいります。有難うございました。

心から感謝しつつ…

洗礼を受けて

マリヤ カタリナ 中尾サチ子

「神様有難うございます。あなた様の愛に背くことはありません。永遠に」復活祭に神の子として戴けました瞬間、神に奉げた感謝と誓いの言葉です。

私は後期高齢者（好期高齢者？）の一步手前です。教会には一人で行きましたので、不思議そうに聞かれます。「動機は一体何だったのですか？」と。その都度、「よく判りませんが、強いて申せば、不思議なふしぎな母の精かもしれません」と曖昧に答えております。

自分が何故教会へ来るのか、それが判らない様では大変ですが、自分の中では信仰の原点これにあり、と信じて疑わないものがあります。然し、僅か数分でこの話をするのは難しいものです。それは又別の機会にゆっくり、と失礼しております。

動機はともかくとしまして、私はごミサに与り、



心が満たされる喜びを戴いています。日曜日お待ちきれないとの思いが募り、洗礼がちかくなつた3月からは、朝のごミサにも参加する様になりました。

毎日生きる元気と、安らぎをごミサから戴いています。心に喜びを戴き、幸せの毎日です。「神様、沢山の愛のお恵みを下さいまして有難うございます」。

過去にも教会に通つた一時期がありました。どうしても洗礼に結び付かず、教会から離れた時期もありました。今の喜びは筆舌に尽くし難いものがございます。

ご指導を賜りました方々や、温かく見守ってくださいました皆様に感謝申し上げます。末永く良き交わりを賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

中尾さんは何才ですか？それはマル秘で末長く。 (筆者写真右)

「出逢い」

ブリジット 石井奈央子

「THE LIGHT OF THE WORLD」という絵をご存知ですか？この扉には、ドアノブが描かれています。いつ、誰が開くのだろう？というのが、この絵をみたときの第一印象です。この絵に出

逢つたのは高校1年生の時であり、中学校から浄土真宗の宗門校へ通っていた私にとって縁の無い絵でした。美しい西洋画として今までみて



いたキリスト教の宗教画の1枚にすぎない：しかし、この絵との出逢いが洗礼の恵みをいただくまでに私を導いてくれました。カトリックの大学へ入学し、聖心侍女修道会のシスターズとの出逢い、学生ミサ、黙想会、平野神父さまとの出逢い、葛西教会と皆さまとの出逢い。今、振り返ってみると、神さまは様々な人を通して私を呼び続け、導いてくださいました。ようやくその事に気づき、大きな喜びのうちに、自ら扉を開くことが出来ました。内側にドアノブがあることによりやく気づきました。

末筆ではありますが、葛西教会の神父さま方をはじめ、毎週土曜日の勉強会でお世話になりましたSr.高取、洗礼式までずっとお祈りくださった方々、洗礼の日に温かいお祝いの言葉をかけてくださった方々、本当にありがとうございます。葛西教会の皆さまとの出逢いに感謝しつつ、今後ともよろしくお願い致します。



うれしかったはつせいたい

レジナ鄭 多恩

この前にはつせいたいをうけました。本番の日には、とてもきんちようしました。でも心の中では「どんな感じなのかな? どんな味なんだろう? はやくうけたいなー」とずっと思っていました。そして本番がきました。はつせいたいをうける順番はわたしが一番最初なので、とてもきんちようしました。

うける時は、左の手の下に右手をつけてすこし上にあげて、もらったら左へ一歩歩いて、右手の親指と人さし指でつまんで、口の中に入れてじぶんの席にもどりました。そして、とても心のあたりがあたたくくなるのを感じました。それでわたしは、はつせいたいっていいなーと思いました。



初聖体を受けて

マリア・パーチス 朝倉 歩

「ごせい体は神様だと教えてもらいました。だから、私はごせい体をいただいた時、神様と一しょにいられるんだなーと思ってうれしく感じました。」



初聖体を受けて

洗礼者ヨハネ 倉島 健

四月十九日に、はじめて初聖体を受けて、うれしい気もちでいっぱいでした。僕はこの日まで、初聖体クラスでいっしょけんめい神様の勉強をしました。

そして、初聖体の日にはじめて神様の体・ご聖体をいただくとき、「キリストの体」というのが、とても大切という事がわかりました。初聖体はとても大切な日なんだとわかりました。初聖体クラスで、みんなといっしょになかなか勉強できてよかったです。これからも、みんなとなかよくいられるといいです。



初聖体を受けて

マリア・グラチア 朝倉 恵

「ご聖体をいただいた時、心の目がひらかれます。と神父さまがおっしゃいました。これからご聖体をいただくたびに、心の目がもっとひらかれるようになりたいです。初聖体前の勉強も楽しかったです。」

合同堅信式

六月二十一日(日) 市川教会にて、幸田司教様の司式により、合同堅信式が行なわれました。(堅信を受けられた方の名簿は8頁に掲載)



教会学校サマーキャンプ

教会学校では7月18日～20日の日程で東京都青梅市にある御岳山へサマーキャンプに行ってきました。参加者の一人、5年生の倉島久実ちゃんの三日間をご紹介します。

サマーキャンプ3日間の出来事

5年 クララ 倉島 久実

《7月18日》今日から私は教会のキャンプに行きました。カトリック教会に着いた時に、とても人数が少なくてびっくりしました。御岳山荘に着くまでけっこう大変でした。色々なことをやったら楽しみにしていた肝試しの時間がやってきました。一緒にやるのは、大学生の若奈リーダーと太リーダーと中村さんと光輝君と海人君の6人です。ちょっと暗い所に行くと帰ってくるだけです。もうちょっと怖い方がいいなと不満でしたが、若奈リーダーはとても怖くて怯えているくらいで少し面白かったです。肝試しが思っていたより楽しかったのが良かったです。



《7月19日》今日はみんな「ロックガーデン」という山みたいな所に行きました。ロックガーデンまでとてもきつくて朝ごはんを沢山食べたのに、すぐにお腹が減ってきました。ロックガーデン



しかったです。最後のキャンプファイヤーでは御岳山荘の人達も参加して、わいわいとても楽しく行えました。明日でキャンプが終わってしまうので仲良くなった友達ともっと仲良くなりたいです。

《7月20日》今日、朝起きると今日で最後かあと少し残念でした。朝食をもりもりと食べ、すぐに御岳山荘を出ました。御岳山荘に住んでいる子とせつかく仲良くなったのに別れるのはとても寂しかったです。ピジターセンターへ行きそこでブローチを作りました。私は食べ物が好きだったのでホールケーキをイメージして木の实などを使って作りました。出来上がって自分の作品を見てみると本当に上手く出来たのが良かったです。今回の7月18日～7月20日のキャンプはとても楽しかったです。

の近くへ行くところ冷房がかかっているみたいにとても涼しかったです。沢の中には力ニヤカ工ルがいて沢で遊ぶのはとても楽しかったです。



共同墓参に寄せて

クララ・カトリナ 法月 恵

2009年4月29日、ゴールデンウィーク前半のスタートを飾る「昭和の日」に府中墓地で行われた共同墓参に参加しました。

当日は、暑いぐらいの初夏のような日差し晴天に恵まれました。

1997年3月に2歳8カ月で急逝した息子、良太のお墓参りは、おはずかしい話ですが、府中墓地へ納骨させていただいて以来、片手で収まるぐらいの回数しか行っていませんでした。しかし、今年主人と私の他に、私の両親も一緒に参加。柴田神父様と葛西教会の皆さんにあたたかく迎えていただきました。

12年前「急性脳症」で突然息子が亡くなってしまった事実を受容することに5年...その後リハビリのように普通の生活を送ること更に5年...。その間、両親や妹たち、同じように幼い子供を亡くされた体験を持つお母様方、そして、葛西教会の皆様のおかげで、心遣いとお祈りに支えられ、こうして、今、心穏やかに墓参できるようなったことを、感謝の気持ちと共に、感慨深く味わいました。

「心は喜びに満ちあふれ、体は安らかに憩う。神よ、あなたはわたしを死の国に見捨てられず、あなたを敬う人が朽ち果てるのを望まない。あなたはいのちの道を示してください。あなたの前にはあふれる喜び、あなたのもとには永遠の楽しみ。」

今、天国で安らかに憩う良太のことは、もう何も心配いらない。残された私たちのためにこそ、記念日や命日、墓参という機会が必要なのだと思いためて感じたひとときでした。ありがとうございました。

「JFY初めての遠足」 2009年5月23日

JFY ヤコブ 大場 優貴

5月23日に参加者、10名(小学3年生から中学生)とCISV(※)、2名、JFYのリーダー、Jr.リーダー、10名、計22名で葛西臨海公園でアクティビティを行いました。

この活動に向けてJr.リーダー達とCISVの人たちで準備をしてきました。

最初は夏のキャンプに向けてCISVの人達から
Jr.リーダーとはなにか？
Jr.リーダーとして何が出来るのか？
と言ったトレーニングを去年の10月から始めました。

トレーニングを進める事によって、
私達Jr.リーダーでも出来る事があると知り、
この活動を行うことにしました。

最初は不安だらけで
ちゃんと出来るかな？
晴れてくれるかな？
なんて思っていました
当日は、雨も降らずとてもいい天気で、怪我もなく終わる頃には、
子供達が楽しそうに笑って
『また今度も行こう』
『またやるなら絶対に行く』
と言っていて、本当に遠足をやって良かった！と心から思いました。

今後もサマーキャンプだけでなくこういった活動を増やし新しい
取り組みにチャレンジしていきたいなあと思います。

※ CISVとは？

Children's International Summer Villages (国際子ども村)の略。
平和教育と国際交流を目的として世界70カ国が加盟し、50年にも
渡って各地でサマーキャンプを開催している。



JFY's First Excursion

On May 23, an excursion was organized by the Jr. Leaders of JFY (Japanese-Filipino Youth) at Kasai Rinkai-koen. Ten elementary and junior high school children, two CISV (Children's International Summer Villages), ten JFY Leaders and Jr. Leaders, total of twenty-two persons joined the excursion.

The idea to organize an excursion was decided by the Jr. Leaders after training sessions conducted by CISV several times since October 2008. The Jr. Leaders organize the excursion to practice what they learned from CISV.

Before the Excursion, the Jr. Leaders were worried about various things such as whether they will be able to conduct the excursion successfully. They also worried about the weather. Fortunately the weather was fine during the excursion. No children were injured and it seems that everybody enjoyed. When asked, the children also showed interest in joining the excursion if it will be held again. Because of this the Jr. Leaders were satisfied and considered their first activity as Jr. Leaders successful.

The Jr. Leaders find out that aside from the Summer Camp, they can also handle other activities and would be happy to have more challenging roles on the future.

Jacob Yuki Oba,

Translated by Kim Barcelona, Jr. Leader